

**2018年1月に始まる  
「つみたてNISA」を徹底解説！**

**大和総研 金融調査部  
研究員 是枝 俊悟**

# 本日の構成

1. つみたて NISA とは何？
2. いままでの NISA（現行NISA）とどこが違うの？
3. つみたて NISA は長期間使える制度
4. つみたて NISA ではどんな商品が買えるの？
5. なぜ、個人にとって積立投資が重要ななの？
6. つみたて NISA と 現行NISA のどちらを使う？
7. つみたて NISA と iDeCo のどちらを使う？

# 1. つみたてNISAとは何？

いつ？	2018年から2037年までに、
誰が？	20歳以上の国内居住者等が、
何を？	株式投信・ETFを
どのように？	積立投資で
いくら？	年間40万円以内

買付けた場合、  
分配金・譲渡益について **20年間非課税** となる制度

## 2. いままでのNISA（現行NISA）とどこが違うの？

	現行NISA	つみたてNISA
口座を開設できる人	20歳以上の国内居住者等	
買える金融商品	上場株式、株式投信、ETF、REIT、ETFなど (原則全銘柄が対象)	株式投信・ETFのみ (さらに銘柄も限定)
商品の買い方	積立投資も一括投資もOK	積立投資に限定
年間投資上限額	120万円（2016年以後）	40万円
商品を買付けられる期間	2014年～2023年 (10年間)	2018年～2037年 (20年間)
商品を運用益非課税で保有できる期間	最長5年間	最長20年間

(出所) 大和総研作成

## 2. いままでのNISA（現行NISA）とどこが違うの？

**Q** つみたてNISA で個別株は買えるの？

**A** 買えません。つみたてNISAの対象は株式投信とETFのみです

---

**Q** 現行NISAと「つみたてNISA」の両方を使って投資できるの？

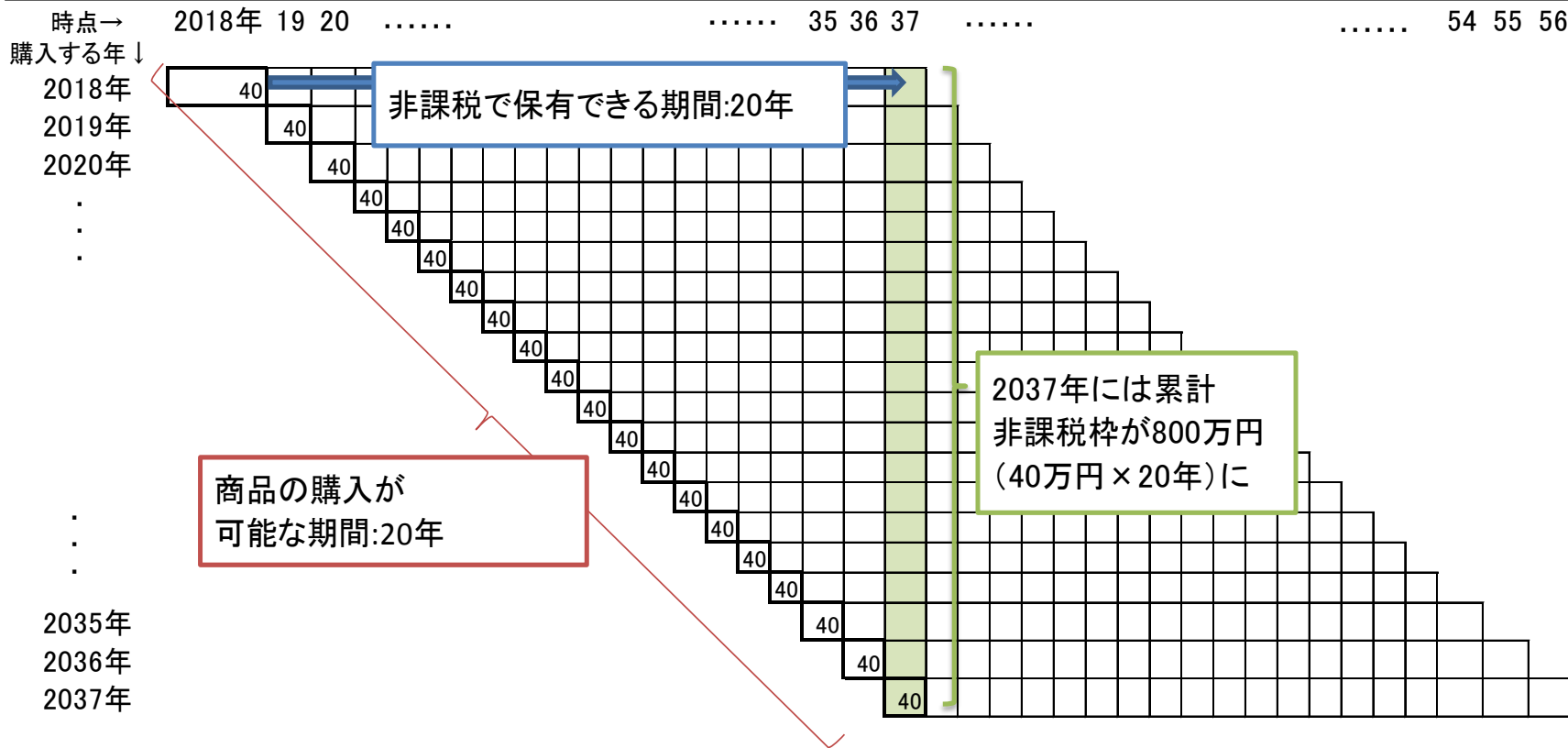
**A** 現行NISAと「つみたてNISA」はどちらか一方の選択制です  
ただし、1年ごとにどちらを使うかを変えることは可能です

---

**Q** 今後は、現行NISAでの積立投資はできなくなるの？

**A** つみたてNISA は積立投資専用ですが、  
現行NISAでは積立投資も一括投資もどちらも可能です

# 3. つみたてNISAは長期間使える制度



(出所)大和総研作成

## 4. つみたてNISAではどんな商品が買えるの？①

つみたてNISA は、個人が長期の積立投資を行うためのもの。  
このため、つみたてNISA の対象商品は、  
「定期的に継続して取得することにより  
個人の財産形成が促進されるもの」として  
内閣府（金融庁）が定めた条件をクリアしたものに限定。

### 主な条件は

(1) 20年以上の投資に向く商品であること

(2) 手数料が明確、かつ一定以下であること

(3) 投資対象は株式を含み、かつ十分に分散していること

## 4. つみたてNISAではどんな商品が買えるの？②

### (1) 20年以上の投資に向く商品であることとは、

- **デリバティブでリスクを増幅させる取引を行わないこと**  
←ブルベア型・通貨選択型は長期の投資には向かない

---

- **信託期間が20年以上または無期限であること**  
←20年後も同じテーマで投資を行うことが有効とは限らない

---

- **毎月分配型の投資信託でないこと**  
←高頻度の分配金支払は複利効果を減殺させてしまう



## 4. つみたてNISAではどんな商品が買えるの？③

### (2) 手数料が明確、かつ一定以下であることとは、

- 個々の投資家に、信託報酬の実額を毎年（または投信の計算期間ごとに）通知を行うこと
- 手数料は、商品の種類ごとに以下の条件を満たすこと

	①	②	③	④	⑤	⑥
	インデックス投信 (国内に投資)	インデックス投信 (海外に投資)	アクティブ投信 (国内に投資)	アクティブ投信 (海外に投資)	国内上場ETF	外国上場ETF
口座管理料	無料					
売買手数料 (税抜き)	無料				購入価格の1.25%以下	
信託報酬 (税抜き・年率)	0.5%以下	0.75%以下	1%以下	1.5%以下	0.25%以下	

(出所) 大和総研作成

## 4. つみたてNISAではどんな商品が買えるの？④

### (3) 投資対象は株式を含み、かつ十分に分散していることとは

- 投資対象には株式を含むこと

→ 債券のみ、REITのみに投資する投資信託は不可

(個人投資家のためというより企業への成長資金供給のため?)

---

- インデックス投資信託の場合は、投資対象が

日本全体・米国全体・先進国全体・新興国全体・全世界  
(先進国+新興国) のいずれかであること

← 中国だけ、ブラジルだけなど(日米以外の) 特定国に投資するのはリスクが高いと考えられるため

## 4. つみたてNISAではどんな商品が買えるの？⑤

### その他の主な条件

○アクティブ投資信託の場合、継続的に市場から支持されていること

- ・純資産50億円以上
- ・設定以来5年以上経過
- ・信託期間の2/3以上で資金流入超

→ これらの条件が課された結果、つみたてNISAの対象となる  
アクティブ投資信託は10本程度に。

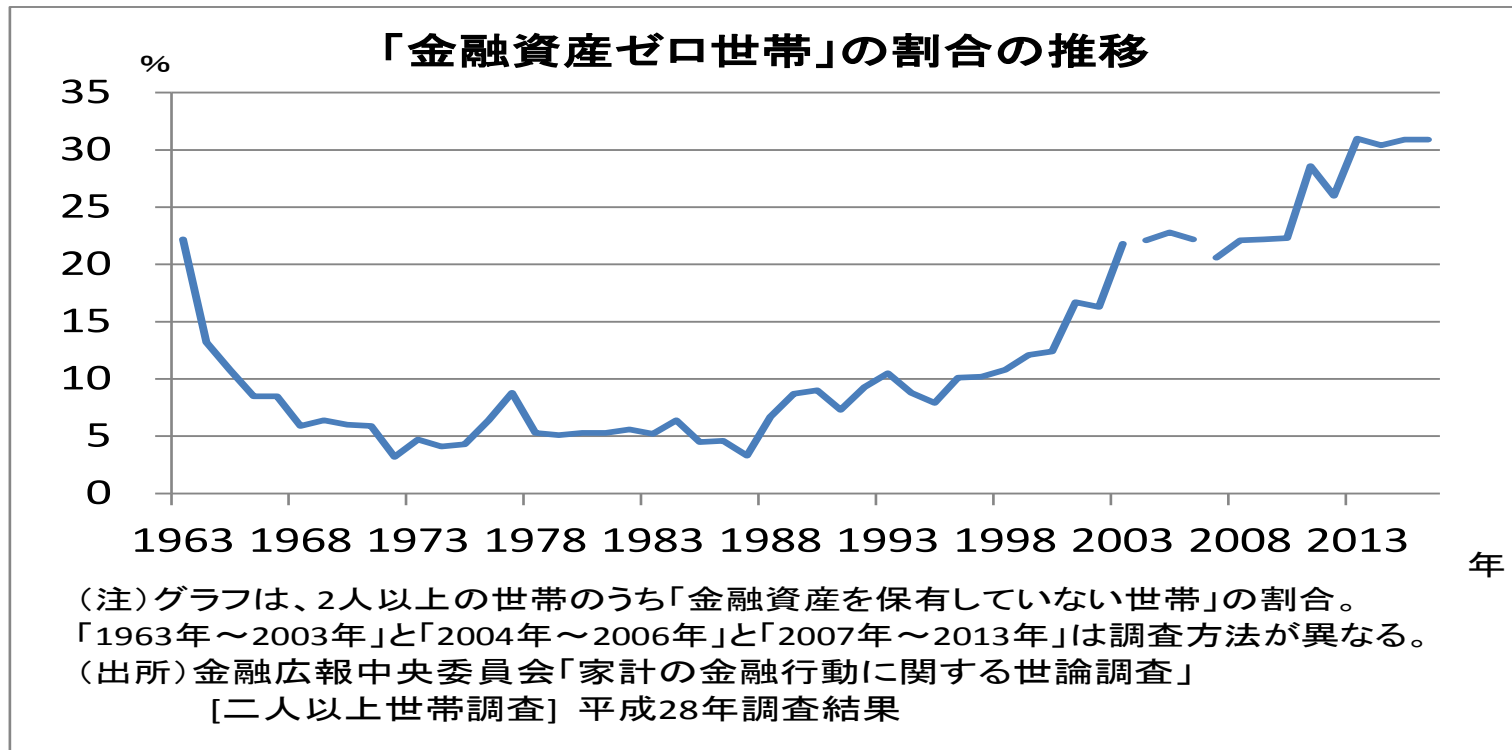
---

○ETFの場合、十分な流動性があり、1,000円以下の単位で投資できること

→ ETFの単元単位での積立は事実上不可能。  
「るいとう」等の枠組みを用いる。

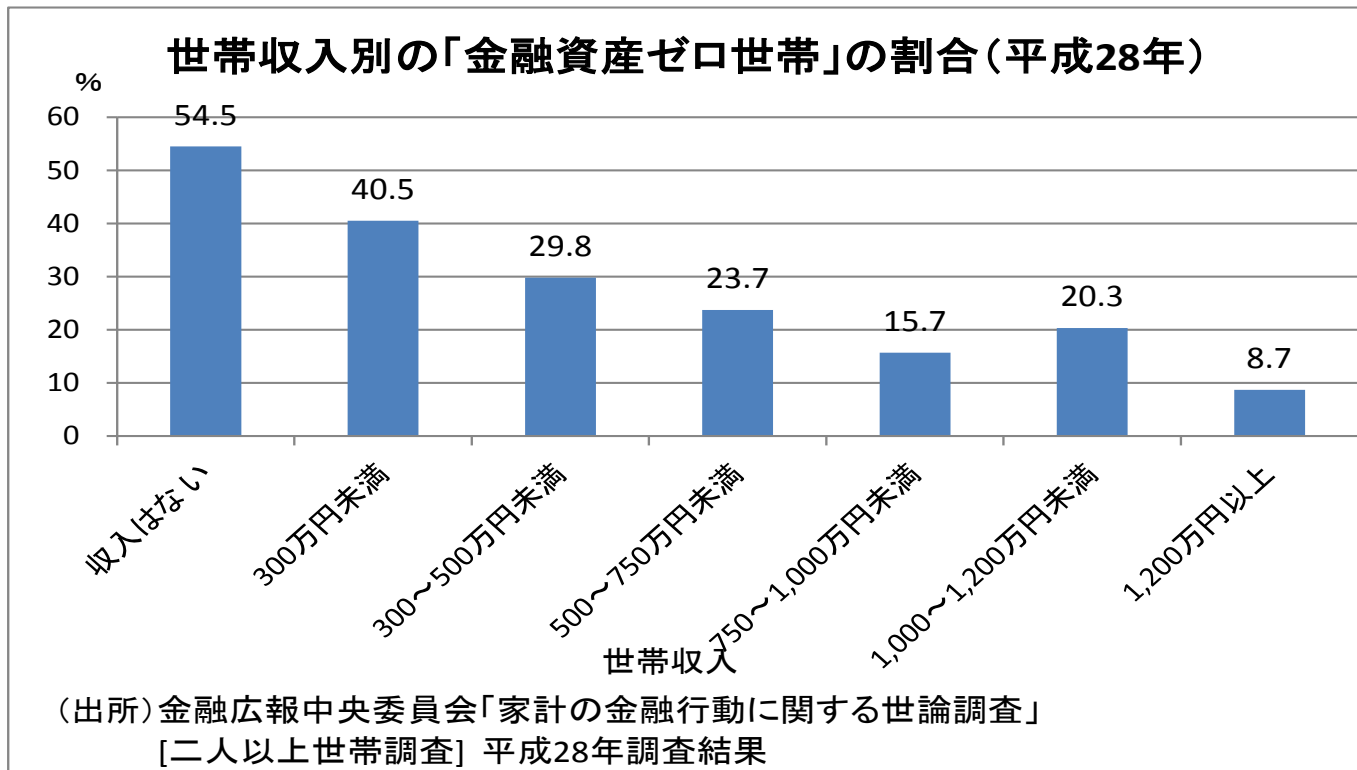
## 5. なぜ、個人にとって積立投資が重要なのか？①

・約3割の世帯は、保有する金融資産がゼロ！



## 5. なぜ、個人にとって積立投資が重要なのか？②

・世帯年収が500万円～750万円の世帯でも、2割以上は「金融資産ゼロ」



## 5. なぜ、個人にとって積立投資が重要なのか？③

- お金を貯めやすくするには「先取り貯蓄」が有効  
先取り貯蓄…給与やボーナスが入ったときに予め貯蓄する金額を「先取り」して、残額で生活費を賄うようにすること
- 先取り貯蓄は定期預金でも可能だけれど…

### 定期預金で先取り貯蓄をした場合

- ・取り崩しの心理的負荷が軽い
- ・低金利なので運用益がほとんど見込めない

### つみたてNISAで先取り貯蓄をした場合

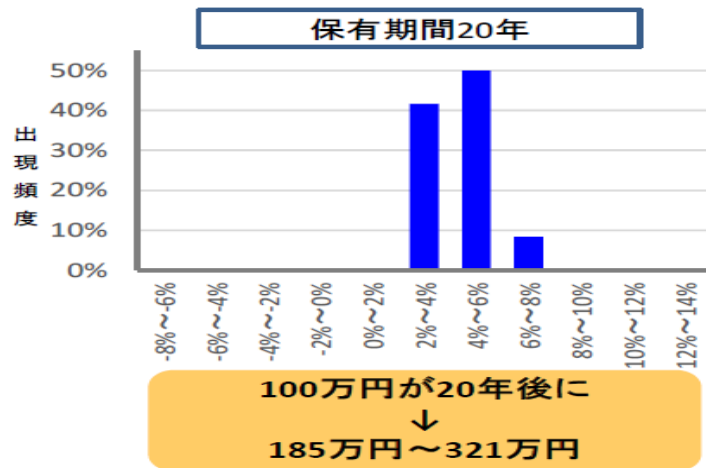
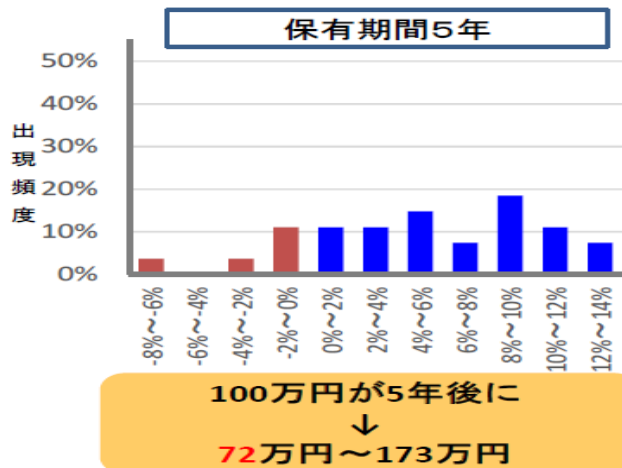
- ・解約の心理的負荷を活用し、なるべく取り崩さずに積立を継続
- ・中長期的には、ある程度の運用益が見込める

## 5. なぜ、個人にとって積立投資が重要なのか？④

- 過去の実績に基づくと、20年間積立投資を続けると、ある程度の運用益を得られる可能性が高いものと考えられる

国内外の株式・債券に分散投資した場合の収益率の分布

20年の保有期間では、投資収益率2～8%（年率）に収斂。



(注) 1985年以降の各年に、毎月同額ずつ国内外の株式・債券の買付けを行ったもの。各年の買付け後、保有期間が経過した時点での時価をもとに運用結果及び年率を算出している。

(出所) 金融庁「つみたてNISAについて」(平成29年6月)

## 6. つみたてNISAと現行NISAのどちらを使う？①

- **つみたてNISA** は、個人が長期の積立投資を行うためのもので、銘柄も限定されている。

### 現行NISAが向いている人

- ・投資先の企業を自分で選んで個別株に投資したい
- ・特定の国や業種に投資する投資信託に投資したい
- ・投資のタイミングを見極めることで大きな売買益を狙いたい

### つみたてNISA が向いている人

- ・どの企業の株を買ったらいいか、どのような国や業種への投資が有望か、自分では判断できない
- ・いつが株価が割安な時期か分からず、毎月一定額を投資することで高値つかみを避けたい



## 6. つみたてNISAと現行NISAのどちらを使う？②

- つみたてNISA は、年間の非課税枠が40万円に限定。

現行NISAが向いている人

- ・既にある程度の預貯金があり、年間40万円を超えて投資をしたい

つみたてNISAが向いている人

- ・現在あまり預貯金がなく、これから積立投資で資産形成をしたい  
(投資できる金額は年間40万円以内)

## 7. つみたてNISAとiDeCoのどちらを使う？

- **iDeCo**（個人型確定拠出年金）と「**つみたてNISA**」は、**積立投資**を行えることと、**運用益が非課税**となることが共通。
- **iDeCo** は、これに加え、掛金の拠出時に拠出額が **全額所得控除** される（ただし、年金・一時金の受取時には、運用益だけでなく元本にも課税される可能性がある点は注意）
- **iDeCo** は「老後の資金のため」の制度なので、一度資金を拠出したら**原則60歳まで引き出すことができなくなる**。

⇒ 老後のための積立で、60歳まで引き出せなくなっても困らない資金であれば、まず **iDeCo** を使うことがおすすめ。

⇒ 60歳までに引き出せる可能性を残しておきたい場合は、**つみたてNISA**を使うことがおすすめ。

## 本日のまとめ

- つみたてNISA は、  
個人が長期の積立投資を行うためのもの。

---

- 現時点であまり預貯金がなく、  
これから資産形成をする人に向いている。

---

- 銘柄が絞り込まれているので、  
投資対象や投資時期が分からない  
投資初心者にも向いている。

---

- 投資対象や投資時期を自分で選びたい人は、  
現行NISA の利用が向いている。